

いのちの御霊の法則

御霊に従って歩む

ローマ8:1~4



8:1 こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。

8:2 なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。

8:3 肉によって無力になったため、律法にはできなくなっていることを、神はしてくださしました。神はご自分の御子を、罪のために、罪深い肉と同じような形でお遣わしになり、肉において罪を処罰されたのです。

8:4 それは、肉に従って歩まず、御霊に従って歩む私たちの中に、律法の要求が全うされるためなのです。

聖霊に満たされなさい

聖書はしばしば「聖霊に満たされなさい」「御霊によって歩みなさい」「聖霊に導かれなさい」「御霊によって生きなさい」と勧められている。

変わらない事実

使徒の働きを読むと、弟子たちは聖霊に満たされ、聖霊に導かれ、聖霊に励まされ、聖霊に押し出されてすばらしい神の働きとその実を残している。

この事実は今日においても変わる事はない。

二つの性質

クリスチャンになると、あるときは人を愛し、忍耐をもって我慢できるのに、あるときは愛に欠け、忍耐を失い、短気になってしまうという、あたかも二重人格者になったような状態を経験する。

肉の願うことは御霊に逆らい、御霊は肉に逆らうからです。この二つは互いに対立していて、そのためあなたがたは、自分のしたいと思うことをすることができないのです。

(ローマ5:17)

意志の力では法則に勝てない

私は自分が**したい**と思うことをしているのではなく・・・自分の**したくない**ことをしているとすれば・・・それを行なっているのは、もはや私ではなく、私のうちに住みついている罪なのです。・・・そういうわけで・・・私に**悪が宿っているという原理**を見いだすのです。(ローマ7:15 ~21)

ローマ書7章 15~21 節の鍵になっていることばは「~したい」「~したくない」とあるように、すべて「意志」である。

私のからだの中には異なった律法があって、それが私の心の律法に対して戦いをいどみ、私を、からだの中にある**罪の律法のとりこ**にしているのを見いだすのです(ローマ7:23)

ところが、この「意志」は「からだの中にある**罪の律法のとりこ**になっている」とある。自分の意志の力では勝利を見出すことはできない! とパウロは言っている。なぜなら罪は「原理」、つまり「法則」だからである。

※「律法」(ノモス)は「法則」「原理」とも訳される。

いのちの御霊の原理

とすれば、私たちはどのようにして勝利することができるのだろうか。

罪の法則に対していかにしたら勝利することができるのか。

こういうわけで、**・・なぜなら、キリスト・イエスにあるいのちの御霊の原理が、罪と死の原理からあなたを解放したからである。**

(ローマ8:1,2)

罪が法則であることを知ることは大きな発見であり悟りである。と同時に、**御霊もまた法則**であるということを知ることはさらなる大発見である。より高い法則がより低い法則を征服できるからである。

御霊によって 律法の要求が全うされる

神はご自分の御子を、罪のために、罪深い肉と同じような形でお遣わしになり、肉において罪を処罰されたのです。

それは、肉に従って歩まず、御霊に従って歩む私たちの中に、律法の要求が全うされるためなのです。(ローマ8:3,4)

7章は「私」 8章は「御霊」

ローマ書7章に出てくることばは、いつも「私は」「私が」「私の」「私を」「自分で」でした。「私はしたいと思う」「自分でしたい」「自分でしたくない」という意志的表現が盛んに使われている。

ところが8章では「私は」ということばは消えて、今度は「御霊が」「御霊によって」ということばが盛んに使われている。

この御霊によって、私たちはそれまでの自分の意志の力ではできなかったことをすることができるのだとパウロは述べている。

8:11 もしイエスを死者の中からよみがえらせた方の御霊が、あなたがたのうちに住んでおられるなら、キリスト・イエスを死者の中からよみがえらせた方は、あなたがたのうちに住んでおられる御霊によって、あなたがたの死ぬべきからだをも生かしてくださるのです。

8:12 ですから、兄弟たち。私たちは、肉に従って歩む責任を、肉に対して負ってはいません。

8:13 もし肉に従って生きるなら、あなたがたは死ぬのです。しかし、もし御霊によって、からだの行ないを殺すなら、あなたがたは生きるのです。

自分の手足を主にささげる

13節に「御霊によって、からだの行いを殺すなら、あなたがたは生きる」とある。

これはどういうことであろうか。それは、言い換えるなら、

「私たちのからだを主の手足としてささげる」ということである。私たちが主に祈って、自分の手足を主にささげ、主の目的のために、御霊の導きにゆだねるなら、自分でしたと言えなくなる。聖霊が私を導いてくださったということになるのである。

ゆえに、私たちのすべての生活の中での優先事項やある決定など、また教会での働きや計画の中で、**御霊に支配権をお渡し**して、その**導きに敏感になる**ことである。

あるときは予定やスケジュールが変更されることがあるかもしれない。そうしたことに決して意固地にならず、常に、**主にあって柔軟性を保つ**ということである。

聖霊の働きは豊かである

主の弟子たちは聖霊を受けて**大胆**になった。**恐れ知らず**の者となり、そして**物事を見極める冷静さ**と**知恵**をも与えられたのである。